

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／香西 武

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

テーマ:エチオピアにおける校内研修充実方策に関する調査研究

計画:過去に教育局長以下約10名を研修員として受け入れて指導してきた。それらの研修に基づいて、現在授業研究を中心とする校内研修について試行的取り組みを進めているところである。教育局では6-7月にその取り組みの集約をする予定であるとき。その集約の場に、参加することができれば、本研究実施への足がかりができるので、科研費申請に向けて、準備していきたい。

2. 点検・評価

これまでの教育支援に基づいて、エチオピアのフォローアップを実施し、エチオピアでの授業研究の取り組みを確認し、アドバイザー等を行った。また6-7月については、メール等を使って、連絡を取りながら状況把握につとめてきた。しかしながら、最近、教育局の人事異動があり、取り組みの変化していきることから、今は研究としてとり組みにくい状況にあることから、科研費申請の準備を中止した。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

安心して大学院に入学するためには、①学問的成果の見られる研究ができること、②将来への見通しが持てることが重要である。これらが充実することによって、安定した大学院希望者が得られるはずである。そこで、①、②を充実させるために、研究への取り組み、学生の将来を見据えた指導を行っていきたい。

2. 点検・評価

修士生への継続的なサポートを通して定員充足にとり組んでいる。年度目標①に関しては、国際誌に2編の論文が掲載された。②に関しては、一昨年JOCV出身の院生を受け入れを行い、無事に希望通り教員の道に進むことができたので、これを一例としてJICA関係の海外での活動においては、JOCVの方々への広報活動も行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

出口保障として、就職指導に関して担当学生や指導を希望する学生に対して小論指導、面接指導などを行い、学生の就職活動を支援する。

2. 点検・評価

採用試験に向けて指導を行ってきた。しかしながら、今年は採用試験に合格したのは半数の学生だった。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

専門的研究に偏らず、教育実践に関わる研究、国際貢献に関わる研究も行っていく。

2. 点検・評価

鳴門ワカメ養殖気技術開発を陰で支えた地元漁業者を発掘し、理科での教材を作成して試験的授業を行った。また、ラオスでの理数科教育に関する学会設立にとり組み、第1回目の研究発表会をもつことができた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

教員教育国際協力センター長として、本学における国際貢献に寄与する。また、学校現場との連携をはかり、本学が教育現場と緊密な連携を図っていることを草の根で伝えられる活動をしていく。

2. 点検・評価

教員教育国際協力センター長として、国際教育フォーラム、ユネスコスクールフォーラム、アフリカ基礎教育セミナー等の実施、延べ117日間のJICA研修員の受け入れ等を行った。この取り組みを通して、教育委員会、学校現場との連携も図った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

国内貢献: 教育研究団体主催の研究会での助言や研究指定校での助言などを通して、研究成果の社会貢献をはかる。
国外貢献: JICAの研修に積極的に参加し、研究成果に基づく研修を実施する。また、可能な限り現地での指導を通して、国際貢献をはかる。

2. 点検・評価

附属学校の研究に共同研究者として協力し、助言を行った。また、教育支援アドバイザーとして、8回活動した。JICAの研修においては、延べ117日間の研修のサポートを行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)